

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年6月7日実施】

学校関係者評価委員氏名【委員集約資料】

2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 ・ 育 成 人 材 像 ・ 目	1 理念・目的・育成人材像	2		学校運営にあたり、一番大切にしていることが、ミッションと理念である。これを基に、時代、業界の変化に対応し作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営ができています。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながってきた。 また理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまな形で文書化し、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人にも外部にもわかりやすく示していくことにより力を注いでいる。このことが、学園、学校の活性化につながっていると考える。 学生、保護者、業界へも理念、教育方針を伝えているが、より一層、保護者の信頼、理解を深めるために、入学時の保護者会に加え、進級時などにも実施が必要だと考える。	業界の変化に対応するため、育成人材の見直しは、常にかつ組織的に行われなければならない。本校では、その専門職として、ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(※)を置き、育成人材像から学科の教育内容の見直しを行っている。 ※ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(FDC) 専門学校における教育の構成要素 ①養成目的と教育目標(社会ニーズと卒業時到達目標) ②目標達成プロセス(カリキュラム・学年歴・時間割・シラバス・コマシラバス) ③目標達成素材(教科書・教材・教育技法) ④目標達成支援人材(担任・専任教員・講師) ⑤評価基準(透明性・公平性・競争性)を学校・学科の独自性・有効性に役立つように改革する核となる人材。	2.8		理念の実現に向けた情熱が感じられ、実践のバランスが取れていると感じる。 各科、新しいチャレンジやアイデアを感じ、遂行力が高いと思う。 専門職としてのFDCを置くという姿勢に、人材育成に対する思いの強さを感じます。教育内容の見直しについては全学校の課題として各校が取り組んでいます。具体的に人材を配置し、5項目の教育要素を分析できているところが高く評価できる。
	2 運営方針	3		法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視しており、事業計画・運営方針を定めている。 明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。理念、方針の浸透を深めるため、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するよう努める。	学校運営をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを前提としている。 また、経歴の浅い教職員が多くいる為、毎月1回の全体会議で教務研修を実施し学園・学校の理念周知の為に研修を実施するとともに、OJTやONOを通して、実践的に行っていく。	2.8		計画と実行の数値管理が確実に実施されている。社会の変化に臨機応変に対応した運営が実践されている。 情報システムの管理は個別で進める事が難しいので、継続的な検討が必要。 実技が多いのでスキルに見える化等の学習ログの蓄積は今後の課題として出てくるかと感じる。 より良くする為に教職員一人一人が常に考えて行動している事が伝わった。 外部との繋がりも多く、とても刺激のある授業内容だと感じている。 学校全体の組織力の高さを感じた。 学校における業務効率化は課題であり、形骸化した作業や従業員自身も何のためにこれが必要なのか、自覚せぬまま進めている業務などの見直しが必要である。具体的にはシステム化に向けての投資と意思決定フローのシステム化、簡略化が考えられる。 そこに対して課題としてとらえ改善していこうとする姿勢が評価できる。学校活動の本質である「学生対応に充てる時間」を増やし、学生目線からの意識の吸い上げに繋げることを期待する。
2 学 校 運 営	3 事業計画	3		法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てること、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。	事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。 その運営のチェック機能として、①学園の常務会議、②学校ごとの戦略会議(運営責任者会議)、③運営会議(学科責任者会議)、④学科会議、部署会議があり、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。	2.8		組織としてとてもしっかりしていて見習うところがたくさんあると感じた。コロナ禍での臨機応変な対応力にも感心する反面、他の美容学校が通常登校の際に、ずっとオンライン授業が続いていたり保守的な部分もあるように感じる。
	4 組織運営	3		理事会、評議員会を定期的に開催し、必要な審議について議決を行っている。学内の意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	理事会、評議会、議事録作成、寄付行為は、法人が運営する複数の学校と連携し、合理的に作成、管理する。 会議については下記2点を重視している。 ①会議の進行ルール ②議題発信と議事録配布・保管のルール	2.8		
	5 人事・給与制度	2		採用計画、人材育成計画は事業計画で定められている。 採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務は情意効果として評価している。 目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかという視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。 多様化する働き方の中で、より一層、それらに対応した制度が必要とし職場環境の改善にも着手している。	2.8		
	6 意思決定システム	3		意思決定システムは事業計画において明文化している。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視している。 また会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されている。	会議は 1. 法人理事会・評議員会 最高決議機関 2. 学校戦略会議 運営方針の起案会議 3. 法人学校運営会議 運営方針の問題を発見・対策立て会議 4. 運営会議 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議 決定事項の周知、教務研修の実施 6. 学校学科会議・部署会議 部署の問題解決会議 7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・学科別教育研究委員会)	2.8		
	7 情報システム	2		業務効率化は進んでおり、職員の残業時間も年々減っている。 効率化された部分は学生対応に充てられている。	様々なシステムで状況共有、業務効率、管理を行っているが、今後データの一元化が課題であり、学校、法人として取り組む必要がある。	2.8		

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年6月7日実施】

学校関係者評価委員氏名 【 委員集約資料 】

2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3 教育活動	8 目標の設定	3		教育指導要領に基づき、学園の教育理念に沿った教育を実施している。教育課程編成委員会のご意見を基に毎年カリキュラム更新も行っている。	学科の特性を加味し、毎年見直しを行い、養成目的、教育目標を明示している。	2.4	高い目標設定と管理が実践されている。 退学者は一定数しかたないと感じるが危険信号をいち早く察知するかが重要と感じる。 カリキュラムが毎年ブラッシュアップされ良いものになっている。 教授力の高い講師・低い講師の記載があるが、その講師の能力をすべて洗い出し、できないの差がどこにあるかを明確化してからOJTを進めるべきである。講師ごとの能力を可視化することは講師の評価基準の明確化にもつながり、強みを伸ばす教育という観点では学生の能力開発にも寄与すると考える。
	9 教育方法・評価等	2		養成目的・教育目標を明確にした人材育成を行っている。今後はキャリア教育やクラス形成に力を入れて、目的意識喪失による退学防止などにも反映していきたい。職業観の植え付けが重要である。	養成目的 教育目標 担任マニュアル 学生サポートブック クラス事業計画		
	10 成績評価・単位認定等	2		成績評価・単位認定については、教育指導要領と学生便覧に明記している。それらに基づき、評価・認定を行っている。また実技授業などの評価に関しては、点数配分を可視化や、ルーブリック評価を用いる等で明確化に努めている。	教育指導要領 学生便覧		
	11 資格・免許取得の指導体制	2		コロナ禍で支援に苦勞した部分もあったが、美容師科国家試験合格率は95.9%で及第点ではあったが、全員現役合格をさせたい。その為には低学力・低技術者のフォローをどのようにやっていくかがポイントになる。不合格者については今夏国家試験受験をサポートしている。	再支援プログラム		
	12 教員・教員組織	2		法律に則った教員配置はできている。教授力の低い講師は高い講師とOJTを組み教授力向上に努めている。学科ごとに特徴が異なる為、それぞれに合わせた取り組みを行う必要がある。	講師会議 学科ごとの科目連絡会		
4 学修成果	13 就職率	2		コロナ禍の中全学科就職希望者は卒業式までに内定を勝ち取ることができた。コロナの影響により、求人件並びに採用人数が職種により引き続き減少。卒業後に就職を希望する卒業も発生しており、引き続き、厳しい状況が続く。保護者会を開くなど保護者連携、協力体制がとれるよう働きかけた。先行き不透明さが続いているため、卒業後のサポートも継続して行っている。	コロナ禍により特に販売職である化粧品やファッションについては、求人減のプラドが多く見られ、採用枠も厳しい状況になっている。学生のモチベーションを維持し、将来への目標を明確にしておくためにも、業界の皆様にご協力いただきながら、指導を強化していく。	2.2	就職希望者に関して十分な指導がおこなわれ結果につながっている。 コロナ禍の中で素晴らしい就職率だと感じる。今後は求人募集も増えてくると思うので早期に学生の希望や方向性を一緒に考えてあげるとより良いと感じる。 業界か産業構造の変化の課題はどことも共通であると感じた。美容だけでなく、理容も含め断続的な市場の動向を見て、カリキュラムへの反映や連携先を作っていく必要がある。 社会情勢における厳しさは依然として続くものの学校としてそこへ取り組みをされている点が評価できる。卒業生の動向についてはOBと学生をつなぐ機会を増やすことも一手かと思う。OB訪問や講演会に講師として招くなど。
	14 資格・免許の取得率	2		定期的に模擬試験を開催し低技術、低学力者に対して早い段階で補習授業を開講している。合格率については全国平均と比較している。	筆記試験に関してのモチベーション低下、出席率が低いことが課題。		
	15 卒業生の社会的評価	2		内定先のサロンや企業様、個人アカウントインスタグラムやツイッターなどをフォローすることで、卒業生の動向を確認している。広報の制作物を企業様に依頼することもあり、その際に把握している。卒業生全員の活動について把握することはできず、数年前の卒業生になると、知っているスタッフがいないため、卒業生だと気づかない場合が多くある。	・入学案内の卒業生ページへの掲載 ・美容専門誌:チエキチヨキ x ベルエポック美容専門学校の発行 ・同窓生向ホームページの拡充		

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年6月7日実施】

学校関係者評価委員氏名【委員集約資料】

2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
5 学生支援	16 就職等進路	3		学生指導は教務担任が行い、業界対応はキャリアセンターが実施している。希望者が複数いるサロンや優良企業は学内説明会を開催していただいている。就職に関する具体的な履歴書、面接は、「就職講座」の科目で指導しており、担任とキャリアスタッフと打ち合わせをしながら実施している。	受験した学生が記入している「採用試験報告書」を取りまとめ、年度の傾向と対策を授業内で実施している。また学生が閲覧しやすいシステムを構築。職員の就職指導力が上がり人気サロンへの内定率が上がっている。	3.0	学生の学習意欲を高める様な工夫が行われている。学生のメンタルを支える健康管理体制が取れている。 安心安全の環境設定が学びの土台となり、結果的に養成像への橋渡しになっていると感じる。サークルや繋がりは是非活性化させたい。保護者のメンタルケアも必要に応じて、体制組む事も重要。保護者の会等のコミュニティ形成も一助となるかもしれない。 スクールカウンセラーなどの対応は良いが、学生が気軽に使用できる工夫が必要と感じる。コンテストの保護者を招いたり、審査に巻き込んだりすると関心を持ってもらえるのではないかと感じた。 学生の就職というKPIにとどまらず、その後の学生の生活へのケアやサポートを実施している点において学生支援レベルとして高い水準を保有している。
	17 中途退学への対応	2		2021年度中途退学率は、4.8%となった。(昨年度5.0%)下降要因としては、キャリア教育に注力し、クラス形成を行った点。中途退学者に関しては、これまで以上に早期に保護者の巻き込みサポートが必要となっている。	クラス事業計画作成を各担任が作成し、クラス運営を行う。		
	18 学生相談	2		学生の各種相談に対応できる体制を整えている。学生の相談内容が広域になり対応の際に専門的知識を伴うケースが多いため、スクールカウンセラーや留学生担当の職員の配置など対応できるようにしている。	SSC(スチューデント・サービス・センター)と連携をして学園として学生相談室を設置しているが、利用率が低いため、積極的に利用を促す。留学生担当教員は東京都専修学校各種学校の主催の「留学生受入れ担当者研修」を受講し、受入れ担当者の資格を取得できるようにしている。		
	19 学生生活	3		奨学金利用や健康管理、学生寮、サークル活動などを学生の生活支援の一環として実施している。養成像との直接の関わりはないが、美容分野への就学の機会や学校への帰属意識、学科・学年を超えた関係性の構築となり中途退学の抑止につながっていると思われる。	公的奨学金(日本学生支援機構・東京都育英資金) 医療機関 一人暮らしサポート サークル活動		
	20 保護者との連携	2		学校について関心を持たない保護者に対してのアプローチをどのようにするかが大きな課題となっており、中途退学率にも影響している。	保護者会等も実施しているが、左記に記載しているような保護者の参加が見込めていない。		
	21 卒業生・社会人	2		卒業生に対する支援体制は同窓会と就職サポートの2点になる。卒業生に対しては、モデルの協力や施設の貸出しなどを提供することで、卒業生のキャリア開発の一躍を担っています。現在はコロナの状況が続いているため、対面によるセミナーなどは開催できませんが、同窓会組織を再構築して、卒業生に対するリカレント教育の場を提供する予定です。	滋慶学園グループとして、多くの職種を育成しているため、美容以外の分野についても学び直すことが可能。		
6 教育環境	22 施設・設備等	2		実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備は整備されていると考えている。各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全てそろえた環境として、承諾を得ている。	経年劣化の破損頻発箇所について修繕を実施。 経年劣化した備品については更新をしている。	2.4	恵まれた実習環境が実現されている。 コロナ禍で活動が出来ていない点は致し方ない部分はあるが、再度目的に立ち返り、オンライン・オフラインへのリソースの振り分けを考えたい。 社会的情勢のいて海外研修が実施できないなど課題に感じておられるが、その代案としてオンライン授業の策定など手を尽くしていることは評価できる。
	23 学外実習、インターンシップ等	2		異国の文化・考え方を知ることができる国際教育は学生の将来にも大きな影響を与える。しかし全学科コロナにより海外研修が実施できず、現地とオンラインにて特別授業、講演を行った。	海外とつないだオンライン特別授業実施		
	24 防災・安全管理	2		防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ非難手順や方法を指示し実施している。例年行っている職員対象のAED利用講習が実施できなかった。また、標準的な備品等は備えているが、大地震に備えた対応を整える必要がある。	・防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 ※学生避難経路確認 ・AEDの全校舎設置 ・各校舎入口に検温器と消毒液の設置、各教室に消毒液の設置を行い、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をしている。		
7 学生入 れ募集 と受け	25 学生募集活動	3		学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	顧客となる「原宿が好き、美容が好き、ファッションが好き」の高校生を対象に、その顧客にあった価値を提供している。(価値:原宿コラボレーション) 授業内容や体験授業でその体験化を図り、入学前教育として職業の理解を深めてもらえるように努め、HPやスマホ、SNSなどで多くの人に見てもらえるように情報発信に注力している。	3.0	学校の特色を明確に示す事が出来ており、学生が理解しやすい校風で志願しやすい環境が出来ている。 学生が、学校生活の日常(楽しい部分)をSNSで発信する事でリアルな学生生活が高校生に伝わり学生も週につながるのではないかと。 学校としてのブランディング、入学希望者の応募倍率については常に高い水準でキープされているため、評価できます。
	26 入学選考	3		入学選考の基準は明確に定められ、適正に入学選考が行われている。入学者数の予測を踏まえ、財務を考えている。	AO、高校推薦、一般と志願者に合わせた選考を適正に行っている。		
	27 学納金	3		学納金については算定の内容を明確にしておりかつ毎年見直しを行い決定している。入学辞退者の授業料の扱いも文部科学省の通知趣旨に則って行っている。	入学金、授業料、諸費用を分けて学費徴収することで、教科書・教材費に関して無駄な費用請求を無くしている。 入学辞退者に関して3月31日までの申請に関しては、原則入学金以外の費用を受験生に返還している。		

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年6月7日実施】

学校関係者評価委員氏名【委員集約資料】

2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
8 財務	28 財務基盤	3		短期・中期・長期の収支計画を立て財務状況の健全維持に努めている。収支・キャッシュフローの状況についても適宜確認できるようになっている。学外に学校会計を担う株式会社があり財務面での処理については中立公正の立場で会計処理を実施しているため不正行為も未然に防げるようになっている。	学校法人東京滋慶学園財務諸表	3.0	健全な経営が行われている。 健全な財務状況、監査フローが確認できる。 学生数や新しい取り組みなど素晴らしい。
	29 予算・収支計画	3		厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。5カ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。	本部による財務状況のチェックを毎月受けている。また監事及び公認会計士による監査、行政への報告などを行っている。		
	30 監査	3		現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えられる。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	31 財務情報の公開	3		財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		
9 法令等の遵守	32 関係法令、設置基準等の遵守	2		関係法令及び設置基準に基づき学校運営が行われており必要な届出も適切に行っている。また社会規範を尊重し、高い倫理観に基づきハラスメント防止のための対応がマニュアルとして明確化されている。学園としてコンプライアンス遵守の方針を打ち出し、各校への啓蒙活動も行っている。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	2.8	適正な法令順守が実現されている。 ハラスメント防止マニュアルが在るところが良い。 特に個人情報の保護については社会的な重要性は年々増しているため、法令のアップデートを敏感に行うべき。ITリテラシーは社会に出た学生のSNS運用においても役立つため、勉強することが必要。
	33 個人情報保護	2		個人情報保護に関する研修を全職員的に受講し意識向上に努めている。本校が公開している情報については全てセキュリティーならびに内容審査をクリアしている。学校のホームページについてはTRUSTeの認証を受けている。ITリテラシー教育の実施。	ITリテラシーに関しては変化が早いため、対応した教育が必要。コンプライアンス遵守を職員や講師だけではなく、教育を通じて学生にも更に浸透していくようにしたい。ITリテラシーテストは毎年、全教職員講師学生が受講している。		
	34 学校評価	3		学校評価は適切な手順・方法で実施をされており、評価結果についても学校情報の一部として公開をしている。	HPIにて情報公開している		
	35 教育情報の公開	2		自己点検・自己評価の結果を学校情報としてホームページ上に公開している。情報公開という点では公開手段は現社会情勢に合った方法をとっており、実施内容は問題ないと考えている。	学校ホームページに下記情報を掲示している。 ・学校情報:トップページよりリンク ・職業実践専門課程:トップページよりリンク「別紙様式4」への導線を敷いている。		
10 社会貢献・地域貢献	36 社会貢献・地域貢献	2		美容業界・エンターテインメント業界と連携した教育プログラムを展開している。ホール等を開放して、学生が現場実習として学べる場としている。地域のアパレル企業とSDGsの取り組みとして服のリメイク活動実施。	原宿コラボレーション	2.0	地域社会への貢献や社会的課題への関心が高まる様な授業、実習を増やす事が望ましい。 実習をどう貢献につなげるか?というような動きもあって良いと感じる。 就労御も地域への貢献については重要なテーマになる為、学生の学びとして提供や学生の活動を支援したい。 服のリメイクは興味関心を持って学生が取り組みやすい内容で良いと感じた。今後は状況により訪問美容などへアに関係する事で地域貢献やボランティア活動が出来ると良い。 SDGsについては日本自体が国として後発であるため、社会基準から大きく遅れているとは言えない。 しっかりとした体制で運営される学校だと感じる。現場主義、流行をすぐに取り入れるにはすぐに流行が移り変わる美容業界にとって原宿がキャンパスなのは最適な環境だといえる。
	37 ボランティア活動	1		地域清掃等はコロナの関係で実施できなかった。 、NPO法人との連携を含めて学生が関わる案件を増やす必要がある。	定期的な地域清掃 SDGs		